

2.1. 蝦夷の雄「阿弭流為」と征夷大將軍「坂上田村麻呂」



蝦夷の雄「阿弭流為・アテルイ」と征夷大將軍 坂上田村麻呂

和鉄の道・Iron Road

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/6iron03.pdf> Page3 より

8世紀末頃まで、東北上川流域を日高見国といい、大和朝廷の勢力圏外にあり、独自の生活と文化を形成していた。当時 大和朝廷は服属しない東北の民を蝦夷と呼び、蔑視してその計略のため数次にわたり、巨万の征夷軍を動員した。胆沢(岩手県水沢市地方)の族長「アテルイ」は近隣の部族を連合して10数年にわたりこの侵略を頑強に阻止した。中でも789年の巢伏の戦いでは勇猛果敢に奮闘して征夷軍に壊滅的な打撃を与え、蝦夷の英雄と称された。征夷大將軍となって東北に赴いた坂上田村麻呂は和戦量戦略を用いつつ、801年 数万の将兵を動員してアテルイを打ち破り、ここに蝦夷攻撃は終り東北経営の拠点として胆沢城が築かれた。

「アテルイ」は十数年に及ぶ激戦に疲弊した郷を憂慮し、盟友「モレ」と同胞500余名と共に降伏、田村麻呂に従って平安京に上った。田村麻呂は蝦夷の両雄の武勇と器量を惜しみ、東北経営に登用すべく朝廷に助命嘆願したが、公家たちに反対され、「アテルイ」「モレ」の両雄は802年に河内の国で処刑された。

田村麻呂は深く帰依し、造営につくしたゆかりの「清水寺」でこの二人や敵味方の将兵の霊にその誠を呈して祈念を重ねたという。また、清水寺の後には京都東山連邦が連なり、その中央部のなだらかな山の上に「將軍塚」がある。

將軍塚からは京都全体が一望でき、桓武天皇が平安京造営を決断した場所といわれる。

そして、長く都を護る祈りを込めて土の武将像・坂上田村麻呂を作り、その甲冑を着せ、鉄の弓矢・太刀を持たせてここに埋めたといわれ「將軍塚」の名がついた。山の中央部にその古い円形の將軍塚があり、また頂上部の大日堂にはこの山から出土した平安初期の大日如来石像が祭られている。

なお、坂上田村麻呂の墓は京都市山科区にある坂上田村麻呂公園内にある西野山古墓が墓所と推定されている。

平安後期編纂の「清水寺縁起」に墓の位置を「山城国宇治郡七条昨田西里栗栖村の水田、畑、山を与える」という文言があり、この場所は今の山科区西野山岩ヶ谷町にあたり、西野山古墓の場所と一致するという。

西野山古墓は清水寺から南東約2キロの山科盆地西部にあり、8世紀後期から9世紀前期と見られ、田村麻呂の時代と一致する。大正8年に墓穴が見つかり、内部から、武人の墓にふさわしい純金の装飾を施した大刀や金銀の鏡、鉄の鍔などの副葬品が出土し、京都大総合博物館に所蔵されている。

一番最初にアテルイの名が出てくる「続日本書紀」では「賊帥夷臣阿弭流為 賊の大將 蝦夷のアテルイ」となっているのが後の編纂になるや「類聚国史」や「日本紀略」では「夷大墓公阿弭流為」と「公」という姓を与えられ、蝦夷の統率者として遇されており、その人物像には多くのなぞが残されていて、かつ魅力的な人物である。

一般歴史では「悪路王」と呼ばれ、田村麻呂の影で悪者とされてきた「アテルイ」であるが、東北では自分たちのオリジンとしての連帯の中「坂上田村麻呂を信じ、更なる騒乱による犠牲と荒廃をさけて自ら投降し、平和共存を願うアテルイ」と広く愛してきた。

そして、平成6年にアテルイの復権に賭けた人たちの熱い運動で、田村麻呂ゆかりの京都清水寺の境内に「アテルイ・モレ」の顕彰碑が建てられた。

■ 参考 「和鉄の道 Iron Road たたら遺跡探訪【IV】 6.蝦夷の鉄 東北 和鉄の道

<http://mutsu-nakanishi.web.infoseek.co.jp/iron/4iron06.pdf>

■ 参考 「蝦夷の雄「阿弭流為・アテルイ」と征夷大將軍 坂上田村麻呂」

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/6iron03.pdf>



坂上田村麻呂公園 2016.6.3. 12:00

住宅地の真ん中にぽっかり緑に包まれた静かな公園

その中央の石柵に囲まれて 坂上田村麻呂の墓(伝承)とする土盛がありました

蝦夷の雄「阿弖流為・アテルイ」への東北の人たちの強い連帯感

古代東北は資源王国。この東北の資源をねらって大和朝廷の蝦夷征伐が始まった。蝦夷たちが手にした蕨手刀は弧状にそり、切る刀への日本刀のルーツ。戦いに敗れた蝦夷の技術集団は俘囚となって、日本各地に散らばって、たたら製鉄・刀鍛冶の技術を日本全国に広めた。出羽鍛冶・舞草鍛冶などの名が広く日本各地に残る。

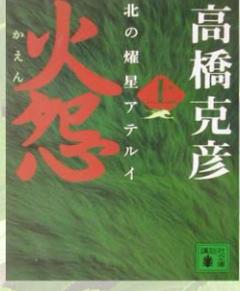
「アテルイ」の実像を示す資料はほとんど残されていないが、アテルイ復権の運動が今も広がっている東北に通って「和鐵」について歩いているうちに「日高見の鬼」と呼ばれる蝦夷の族長「アテルイ」に東北の人たちが親しみを込め、熱っぽく語るその人物像ならびに「アテルイ」への強い連帯にビックリ。アテルイの生涯と蝦夷の戦いを熱っぽく描いた盛岡在住の高橋克彦氏の小説「火怨」があり、東北人の思いを込めたアニメ映画「アテルイ」の原案でもあり、東北人で語られてきた「蝦夷観」「田村麻呂と蝦夷との交流」ほか当時の東北の事情が良く描かれている。



「アテルイは親・兄弟を愛し、美しい自然を愛すために生きた。21世紀の人間がどう生きるかという大切なメッセージがある」
岩手県民総参加製作の長編アニメ映画「アテルイ」のメッセージより

岩手県北上市の市民憲章より
「あの高嶺 鬼住む誇り その瀬音 久遠の讃歌
この台地 燃えたついのち ここは北上」

北上市市民憲章
あの高嶺 鬼住む誇り
その瀬音 久遠の讃歌
この大地 燃えたついのち
ここは北上



清水寺にあるアテルイ・モレの顕彰碑

坂上田村麻呂の墓 西野山古墓 & 勸修小隣接 坂上田村麻呂公園内の

大正8年(1919年)に地元住民が竹林に土入れ作業をしていたところ、偶然に上部と周囲が木炭で覆われた木棺墓を発見、京都大学により発掘調査が行われ、金銀平脱双鳳文鏡、金装大刀、鉄鎌などの副葬品が発見された。周辺が中臣氏の根拠地であることから、被葬者はその一族とされていたが、昭和48年(1973年)に地元の歴史考古学研究者である鳥居治夫は、条里制の復元研究結果にもとづき同墓が坂上田村麻呂(758年~811年)の墓である可能性を指摘した。平成19年(2007年)、京都大学大学院文学研究科の吉川真司教授が清水寺縁起の弘仁2年(811年)10月17日付の太政官符表題の記述と当時の地図(条里図)を基にした山城国宇治郡山科郷古岡(東京大学蔵)とを照合することで坂上田村麻呂墓説を裏付けた。

銀平脱双鳳文鏡1面、金装大刀1振、鉄鎌、鉄刀子、鉄釘、鉄板2枚、用途不明鉄製品、硯1点、水滴1点、石帯破片、漆箱、桐箱。これら副葬品は第1発見者から京都大学に寄贈され、昭和28年(1953年)に山科西野山古墓出土品として一括して国宝に指定



なお 平安遷都1100年を記念して明治28年(1895)に整備された「坂上田村麻呂の墓」が、古墓の南東1.5kmにある。現在、マウンド状の土盛りが造られていて京都市が公園として管理している。しかし、考古学調査が行われたことはなく、マウンドは田村麻呂の時代より古い古墳時代の墳墓の可能性が指摘されている。また、西野山古墓も竹やぶで覆われ、正確な位置がよくわからぬという。



手前の竹やぶが西野山古墓(×印)、上方の○印が清水寺



西野山古墓の正しい位置が発掘後、時を経て不明となりましたが、現在は発掘調査が行われた場所近くに、石碑が建てられているという。この西野山古墓は、道幅が狭い割に交通量が多い滑石街道のまるでサーキットのようなヘアピンカーブに面して位置し、とても歩いて行ける場所でないという、



坂上田村麻呂の墓とみられる西野山古墓



坂上田村麻呂公園内 地元で伝承されてきた坂上田村麻呂の墓

● 坂上田村麻呂の墓とされる山科 西野山 西野山古墓の位置
府道118号線 滑石越の古道沿いに記されていました

今回 出かけるときには 西野山古墓の位置がよくわからず、今回探し当てる事ができませんでしたが、インターネット等調べて、高速道路8号線山科入り口のところから西野山・稲荷山を越えて京都今熊野に出る「滑石越の古道」を少し登ったところにその位置が記されていたので、書き記しておきます。

山科側から滑石越の山道に入って狭い急な坂道を上り、アピカーブを曲がる場所の竹やぶに西野山古墓が眠る。現在は藪に包まれていてよくわからぬという。



山科 西野山 walk 主要訪問先案内

